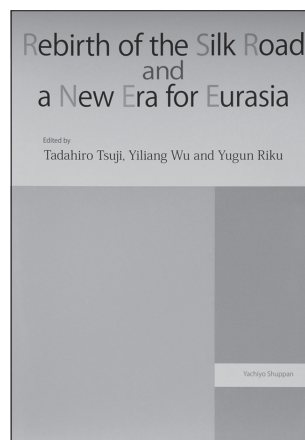


Tadahiro Tsuji, Yiliang Wu and Yugun Riku eds.

Rebirth of the Silk Road and a New Era for Eurasia

Yachiyo Shuppan, 2015



本書は日本大学経済学部の中国・アジア研究センターによる共同研究プロジェクト（研究テーマ：「新シルクロード地域の経済発展に関する研究」）の研究成果である。当研究プロジェクトは、日本の研究者のみならず中国・中央アジア地域の専門家の参加も得て、2011年から3年間で数回に及ぶ現地調査やシンポジウムを踏まえた共同研究である。主に、中国の内陸地域からユーラシア大陸内部の中央アジアにわたる、いわゆる陸の新シルクロードの経済発展に関する学際的な研究である。

本研究は、産業集積や都市化の理論的研究をもとに、近代の輸送システムを備えた新シルクロードに沿って発展する都市を結びつける「ビーズ型」産業都市の形成を提案している。陸上輸送技術の発展や輸送インフラ整備など輸送ルートの充実が産業都市の経済開発に重要な役割を担い、「ビーズ型」に形成された産業都市の発展がダイナミックな変化を引き起こす。そして一層の産業集積が進み、新シルクロードに沿った国際経済取引を活発化し発展を促進するというものでありグローバル化を促進させる。

これまで、ユーラシア大陸の内陸地域は、労働コストも安く、天然資源も豊富にあり、経済の潜在的可能性は大きかったが、発展が制約されてきた。しかし今後、新シルクロードとして輸送競争力が改善され、有望な投資先にもなり発展が期待できる。本書は「ビーズ型」開発戦略を中国・中央アジア地域に拡大して、その有効性や可能性、問題点などを検討している。

本書は、現地調査やシンポジウムに参加したプロジェクトのメンバーがそれぞれ執筆し、12章から構成されている。

第1章は、ユーラシア大陸の東西回廊を結ぶ結節点にある中国新疆ウイグル自治区と中央アジア諸国の地政学的重要性を論じている。特に、豊富に存在する天然資源や輸送インフラ、貿易関係など中央アジアと中国の経済関係に焦点をあて、政治経済学的視点より検討している。

第2章は、研究の理論的基礎として「ビーズ型」開発戦略の概念と「ビーズ型」産業都市の形成を提示する。そして内陸地域の経済発展の可能性とメカニズムを検討し、新シルクロードがユーラシア大陸の重要な陸の輸送ルートとなり、経済的利益を生み出しようと結論付けている。

第3章は、発展途上国に固有の動態的なキャッチ・アップ・プロセスの存在を論述する。それは、産業再配置の効果が国際的に拡大する概念によって支持される「雁行形態論」とは異なったプロセスである。動態的なキャッチ・アップ・プロセスは、中国西部や中央アジア諸国の内陸地域にも適用可能である。

第4章は、EU貿易政策について検討し、EUの対中央アジア貿易の主な目的は多様なエネルギー輸入であることを述べ、貿易関係の不均衡や垂直的な特徴を検討している。鉄道や道路システムによる東西を結ぶユーラシア回廊ができると、新シルクロードにおいて中央アジア諸国は、輸送ハブとしての重要性が考えられる。

第5章は、輸送手段として新シルクロードの競争力について議論している。まず、理論的モデルを使って、競争力の概念や指標を説明し、貿易データを用いて輸送競争力を測定している。また、近年、新シ

ルクロードの輸送競争力の改善傾向や鉄道輸送の現状や問題点も検討している。

第6章は、インフラに焦点をあて、新シルクロード地域への「ビーズ型」開発戦略をうまく適用する必要な条件はなんであるかを検討する。各拠点都市が相互に関連しあい、インフラは必須条件である。インフラ形成は、ハードだけでなく、地域の経済協力のようなソフトな観点も含めたインフラ形成が不可欠である。

第7章は、新シルクロードの経済開発の理論的なフレームワークを中央アジア地域に適用し、現状を分析した。拠点都市を主要都市と新興の中小都市に分類し、これらの都市の発展を叙述し、ビーズ型の産業地域の形成の可能性を検討した。

第8章は、新シルクロードの主要都市から得られたパネル・データを使って、輸送インフラ状態と全要素生産性の成長性との関係を分析した。17の主要都市を選別し、鉄道や高速道路から得られる全要素生産性は高いレベルに達することが観察された。また、空間的スピルオーバー効果も確認され、輸送投資への奨励は重要であると結論付けている。

第9章は、新シルクロードに沿って進行中の多くのインフラ事業の効果を決定するグラビティ・モデルを使って分析を進めた。そして、カザフスタンにおける国際貿易と経済発展の地域統合手段の影響を検討した。輸送時間の削減は輸出増加を導き、GDPの増加に至ることも明らかであった。

第10章では、近隣諸国との相互交流と工業化の視点からウズベキスタンの現状を調べ、将来の経済展望がどうかを確認するため金融市場を検討した。ウズベキスタンの海外との交流は積極的に進められており、国際貿易の利益となっている。さらに、大規模な金融市場の形成が必要とされるが、インフレの抑制や人的資源開発がなされなければならない。

第11章は、経済的視点から都市の持続性と経済開発戦略を決定するために、比較的最近のテーマである「縮小する都市」問題を中国の都市を例として取り上げた。都市の成長は生産能力に依存するため、中小企業の活動の活性化が都市経済の活力のカギとなると論じている。

最後の第12章は、新シルクロードの経済的潜在能力を引き出すうえで日本の役割の重要性を論じている。新シルクロード地域との関係は、天然資源との関係で徐々に進展しているが、貿易や投資は依然としてわずかである。しかし、新シルクロードの輸送競争力の改善はユーラシア大陸の経済力を劇的に変化させ、日本に利益をもたらす。日本は積極的に新シルクロード地域に関わることが重要である。

2000年3月、中国政府は「西部大開発」政策を打ち出し、西武地域の重点的開発に乗り出した。急速に経済発展した沿海部との経済格差を解消し、道路や鉄道などのインフラ投資を積極化し、沿海部の経済発展を内陸部につなげる政策を取ってきた。

2014年11月、中国政府は「一帯一路（新シルクロード構想）」の世界戦略を打ち上げ、2015年6月、アジアインフラ投資銀行（AIIB）を設立し動き出した。中国が持つ巨額の資金力を使い、途上国に道路や鉄道などの交通インフラを整備し、中国の経済力をユーラシア大陸全域と結び付け、巨大な自国中心の経済圏を形成しようとするものである。

本書は、ユーラシア大陸を陸の新シルクロードで結びつける地政学的に重要な戦略地域を研究対象としている。中国西部地域と中央アジア諸国というエネルギー・鉱物資源の豊富な地域の経済開発をどのように行うのか重要な課題である。2015年10月、安倍首相は、モンゴルと中央アジア諸国を訪問した。日本の目的は、中央アジアに豊富に存在するエネルギー・鉱物資源を安定確保し、日本の投資や技術援助などを進め現地の経済発展を図り、中国主導で進行する新シルクロードに何らかの形で関与することが目的である。

本書は、陸の新シルクロードの一端を研究テーマとしており、タイムリーな出版と思われる。なお、本書は英文で発表されており、筆者は第1章を担当している。各章どこから読み始めても理解できると思われるので、興味ある章から読んでいただけたら幸いである。目次は、以下の通りである。

Contents

Introduction

Chapter 1 New Silk Road and Central Asia from a “Geo-Economic” Perspective

Chapter 2 Forming a Beads-type Industrial City along the New Silk Road

Chapter 3 Dynamic Catch-up and the Possibility for New Regional Economic Development

Chapter 4 EU Trade Policy towards Central Asia States: Implications for China and Japan

Chapter 5 Measuring the Transportation Competitiveness of the New Silk Road

Chapter 6 Economic Development in Central Asia and Infrastructure

Chapter 7 Chinese Regional Development and the New Silk Road: An Examination of Existing Major Cities and
Emerging Small-to-medium Sized Cities in the Central Region of China

Chapter 8 Pattern of the Newly-Internationally Traded Products in the Central Asian Countries

Chapter 9 New Silk Road and Economic Development in Kazakhstan

Chapter 10 Economic Overview of Uzbekistan: Cooperation, Free Industrial Zone Establishment, and Financial
Stability

Chapter 11 Importance of Innovative Endogenous Industrial Policies for Shrinking Cities along the Silk Road

Chapter 12 Economic Development of the New Silk Road Area and Its Links with Japan

Closing Remarks

(あきやま けんじ 神奈川大学経済学部教授 秋山憲治)